

コロナ禍における（福岡県内）文化ボランティア活動への影響に関するアンケート調査結果

1、アンケート調査の背景

2020年春からの新型コロナウイルスの猛威で、不要不急な外出の自粛要請が出されるなど、ボランティア活動は困窮を極めています。人と人の“つながり”が難しくなっている時、各団体がどのような“気付きや工夫”を尽くして活動を続けてきたのか、その実態をアンケート調査し、結果を公表することで今後の活動のヒントとなることを願って実施いたしました。

なお、今回のアンケート調査に関しては 福岡「子どもの読書」関連団体連絡協議会 加盟の「読み聞かせボランティア」を始め、多くの皆さんから回答を頂いたので、アンケート調査結果も「読み聞かせボランティア」と「その他文化ボランティア」の比較ができるようにまとめました。ご協力頂きました各団体の皆さまには、心より感謝申し上げます。

2、アンケート調査の実施概要

- ・ 実施期間 : 2020年11月18日～12月10日
- ・ 回答者数 : 109団体（回答率：51%、内 読み聞かせボランティア 45団体）
- ・ 実施主体 : 福岡県、NPO法人文化ボランティアとびうめの会 (<http://www7b.biglobe.ne.jp/~npo-tobiumenokai/>)
- ・ 回答者の範囲 : 県内の文化ボランティア
 - ※ 福岡県では、次の5つの領域に関わるボランティアを「文化ボランティア」としています。
 - ① ホール・劇場ボランティア、 ② 美術・博物館ボランティア、 ③ 観光ガイドボランティア
 - ④ 読み聞かせボランティア、 ⑤ まちづくりボランティア
- ・ アンケート実施方法 : 郵送（返信は着払い封筒）

3、考察

新型コロナウイルス感染拡大の影響は、回答者全員から「影響が出ている」（設問Ⅱ）との回答がありました。活動を続けている9割の団体においては、マスク着用や手指消毒、三密回避を徹底するとともに活動の回数や時間を変更し、人数を減らすなどの工夫を講じてきたことが分かりました。また、コロナ禍での気付きは、7割（設問Ⅷ）の団体が「あった」と回答しています。

1) コロナ禍から見えてきた課題

「読み聞かせ」および「その他文化ボランティア」に共通した課題として「メンバーの高齢化」があげられ、若い(?)新しいメンバーの入会が少ない傾向が読み取れます。

□ 高齢化の実態は、

- ・コロナの感染がもろに懸念され、活動が停滞している。
- ・リモート対応など新しい機器対応に苦慮している。
- ・メンバー間の活動意欲の低下が心配され、やがては団体の活動を左右することにもつながる。

2) “気付き” から 見えてきた事柄

□ 十分なコロナ対策と活動のやり方を変更・工夫すれば活動は再開できる。

- ・活動の意義と楽しさ、さらにやりがいに改めて気付いた。
- ・コロナ禍の中の活動は、家族の協力や理解があってこそその活動である。
- ・コロナ禍における文化的活動の重要性および必要性に気付き、活動は何としても継続すべきである。
- ・人とのふれあい、生の声の良さ、おはなしを語る喜び、おはなしを聞くことの大切さに気付いた。
- ・情報の共有などメンバー間の連絡をより密にし、楽しくボランティア活動を続けたい。

□ 読み聞かせボランティアの皆さんからの懸念

子どもたちへの読み聞かせは、コロナ対策で求められる三密に配慮しマスクやシールド着用で再開されているが、心配の声もある。

- ・これまでは子どもたちと対面で “息の触れる生の声” でのおはなし会を行ってきたが、その良さや楽しさが全てなくなる。
- ・コロナ感染防止のため不必要な発言や大声を禁じていると、子どもたちは無意識のうちに感情表現を抑えてしまう傾向があるようだ。

3) 新たに求めたい支援

コロナ禍のなか、これからの活動にリモート対応は望ましく、未だ対応できてない団体にとっては関連する機器や技術支援の要望が強く、また活動を進めるなかで相談窓口となる行政や中間支援組織の拡充要望とともに、資金面での支援要望もあります。

その他、読み聞かせボランティアからの要望として次の2項目があげられました。

1. 同じ活動をしている “団体の繋がる場” (市町村単位のネットワークなど) の整備を望む声が複数団体あり、急を要する課題と思われる。
2. その他、行政や学校への要望として、おはなし会 “開催の場” (図書館、学校など) を用意して欲しいとの声が上がっている。

※ アンケート結果の詳細は <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~npo-tobiunenokai/>で見ることができます。